軍艦巻
成人向
for adult
1.0
presented by
マキ帝国
PUKA PUKA

「くっ…整備にかこつけて
このような破廉恥な格好を私にさせるなど…
提督の風上にも置けん痴れ者め…!!」
ふー!
ふー!
くぱっ
「えぇい…!!見るな!
まじまじと見るんじゃない!貴様ぁ…!!」

『おぉぉっ…出るぞぉ！』
「んぐっ!?……んっ…ごくっ…」
『ほほっ、そうだ一滴もこぼすんじゃないぞ。17駆逐隊の娘たちの処遇は君の態度次第だからね』
「ぁふっ……わかっています。私の身体を汚したいならば好きにすればいい…」
『く～～っ、その反抗的な目が堪らんなぁ！その余裕がどこまで持つのか楽しみだのう』
「……っ!?」
どぴゅ
ムニュッ
ぱぁぁ
ムニュッ
ぱぁぁ
ぱぁぁ
ぱぁぁ

「……かはっ!?く、くるしっ……」
『これよ、これぇ！生意気な女は首を絞めながらがっしがっしハメるに限るわ！』
「やめっ……や、め……ぉぇっ……」
『ほほっ…殺しはしないから安心しなさい。君は大事な繁殖用牝牛艦なんだからね！』
「な…なにをい…っへ…？」
『おぉぉぉぉぉっキタキタキタァ…！今新鮮なオス汁たっぷり射精してあげるから、しっかり孕むんだよ浜風くん!!』
「――っっ!??」
ハァ
ハァ
ズン
ズン
ズン

『ふぅーっ、年甲斐もなくハッスルしすぎてしまったわい…♪』
「…ぁあ、っ…はひっ……」
『ハァハァすばらしかったよ浜風くん、君には私からあらためて任務を与えよう。
……という条件で17駆逐隊の無事を約束しよう、受け入れてくれるかね？』
「は…ぃ…」
『そうかそうか！では誓いの言葉を言ってごらん♪』
『は…浜風は、一生、いつでもすきな…ときにんっ…おじさまのおっ子種をぉ…膣内でうけとめて…あっ孕ませっ…ていただく…だけの専属牝牛になることを…いっ…誓ひます……』
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

「ふふっ、そんなにがっつかなくとも私の胸は逃げないぞ♥」
『はぁむ…じゅるっ！長門さん…長門さんのおっぱいおいしいです…』
「提督の気が済むまでしゃぶっていると良い」
(提督と言えどもまだまだ子どもか……
母恋しさから求められるというのも悪い気はしないな)
「こちらもそろそろ限界のようだじな…」
ぷるっ
ぷるっ
う！
う！
『あっ…あぁぁっ！出ちゃいまふ！
おちんちんから…んふっ…むぅぅぅ!?』
「ふむ、勢い良く出たのは男らしいが、
男子たるもの情けない喘ぎ声など出すものではないぞ
そんな口は私の胸でふさいでやろう♥ ふふふっ…」

「あひぃっ!!て、提督ぅぅ、落ち着くの…っだぁぁんっ♥ひんっ♥はひぃぃん♥♥♥
『あははっ!!長門さん、気持ちいいんだよね??
ぼくのおちんちんで気持ちよく
なっちゃってるんだよね!??』
「くぅ!!感じて、感じてなどはいない…
あっ…いな…ぃうひぃぅぅぅんん♥」
ハッ♥
ハッ♥
ハッ♥
ハッ♥
スパン
スパン
ベッ♥
ベッ♥
『ねぇ!ねぇ長門さん!!僕の、
僕だけの長門さんになってくれる??』
「なにぉぉ…い、言っへるんだぁぁ♥
そんなことぉ…そんな素敵なことぉ♥♥」
『ほんと!?じゃあ、誓って!!
僕のものになるって…さぁッ!!』
「はいぃぃん♥長門は提督のぉ♥
提督専用のこども便器艦に
なりましゅぅぅぅ♥♥♥

『う……すぅ…』
「ふふっ、先ほどまで獣のように私を犯していたとは思えない可愛い寝顔だな…」
『んぁ…んんっ！…長門さ…ん…』
「はは！あれだけやって、まだ夢精するほど余らせているとはな！」
（好きなだけ吐きだせばいいさ。もう私は提督の、あなただけの女なのだからな…♥）
ハァ
ハァ
ちゅぱ♡
ハァ
どぷ
どぷ

「はぁぁ…っ♥」
『どうだい、夕張ちゃん 新しい改装の具合は？』
「体の奥が熱くなって、すごく…ふわふわしてます…」
『ふふふっ、それは改装による一時的な気分の高揚さ』
「は、はい…！んっ…れぇろ…じゅるっ…（んんっ!?ただの唾液のはずなのにおいしい…」
じわ♡
『ふふっ、これだけ出来上がっているなら次の工程に進んでも問題ないかな？』
「……はい♥おじさま…♥♥」

『オラァ!!しっかり腰ひっつけねえと大事な精液が漏れちまうぞ!!』
「はひぃぃぃぃっ!!きた、キタぁ♥おじさま精液キタぁぁぁ♥♥
子宮で、夕張の子宮でしっかり受け止めさせていただきましゅうううっ♥♥♥」
『くぅ〜っ、痛いくらいに膣に力込めやがって…
チンポを逃がしやしねえ…!!』
ハァ♥
ハァ♥
「おじさまぁ♥もっとぉ♥も〜っとほしいんです♥♥
おじさまの種付け重油で夕張をいっぱいにしてください♥♥♥」
『へへっ!薬のせいとはいえ、とんだ淫乱メロンちゃんだったわけだ…なっ!!』
「あひぃぃぃぃぃ?きたぁ♥♥♥イく、またイっちゃうぅぅぅぅ♥♥♥」
きゅっ♥
きゅっ♥
ビュッ

「司令官、これはどういうことかしら。不知火になにか落ち度でも？」

「すぐにわかるって…。ふざけてないで質問に答えて下さい」

ムチ♡

ムチ♡

「っ!?」
（なにかがお尻に…）

「あの、司令…これはどういうこ、ひゃぁん?」
（うそっ、スパッツの中に熱いのが入って…!?）

ゴクッ

コスッ

コスッ

ゴクッ

「ちょっ、嫌です、そんなとこすっては…ひっ!?
なに、このドロッとした…」

「司令、いい加減にしないと……っ!?」
(うそ、そんな…スパッツがやぶ…
痛、痛い!私の膣内に熱いのが…は、入って……)

~数時間後~

「…ぁぁっ♥んっ…はっ、はぁ……っんん♥」
(あぁ…膣内で熱いのが…これで何…回目かしら…)

「ご、ごめんなさい…司令…
不知火は…悪い娘ですだからもう許して…下さい…」

(こんな仕打ちをして…
不知火を本気で怒らせたわね…
絶対に許さない……!!)

~数日後~
「うふふ。今宵の接待係を努めます、不知火です。提督直々の特別演習を経て、殿方を満足させるためだけに訓練された性処理スパッツ奴隷駆逐艦です♥ご指導ご鞭撻、よろしくです、大臣のおじいさま♥」
「はぁぁっん♥現役バッキバキの老人ちんぽに、老獪テクニックすごいすごいですぅ♥♥」
「ほらっ、不知火の子宮にびゅーって射精して♥おじいちゃん子種で不知火をマーキングしてくださいっ♥♥」

「くっ、笑いたければ笑えばいいだろう！こ、こんな駆逐艦の、サイズが合わない服を着せて喜ぶなど…貴様はどうかしている…」
「ばっ、ばば…馬鹿者!!か、かわいいなどとからかうんじゃない!!」
もじ
もじ
きゅん
「人を弄んで平気な顔をして…私には貴様という人間が分からぬ!!」
「分からぬが、ただ…ただ……そんな貴様でもわた、私は…嫌いではない…」

「はっ…はぁ…はぁぁん!!こんなっ……性交とはこんな乱暴にするものではぁぁぁんっ♥」
「貴様はぁ…貴様は卑怯だぁ!!」
「わたしが貴様に逆らえないと知っていながらこ、このようなことをさせるなどぉ…♥」
あっ♥
はっ♥
「きもちいい♥きもちよくてたまらいのだぁっ♥」
「き…貴様にっ!!貴様に愛されていると思うと、もう…もぉダメなんだぁ♥」
「はひっ♥はっ…あぁ♥イくっ♥イっ…イってしまぅぅぅッ♥♥♥」
パコッ
パコ

「くっ、尻を打たれつつ、されるがまま、獣のような格好で尻穴を激しく犯されるなどなんたる屈じょ、ひゃぁぁん♥♥」
「か、感じてなど…断じて感じてなど…いないぞぉ♥♥」
「こんな、まるで恋人のような♥はむっ！ぁむっ！もっろ♥もっろ舌、絡めてくれぇ♥♥」
「いいっ、きもちいいぞ♥もっと突いてくれ♥」
「あぁぁ♥ 射精てるっ♥ 私の膣内に貴様の子種がまた射精てぇ♥♥」
パァン
パァン
ぱしゃ
パコ♥
パコ♥
パコ♥
ドプ

「はひぃゃあ…？またぁ…じゅる…こんなにたくさん出して…♥」
「ほんとに、ほんとに、どうしようも…げぷっ…ない…おちんぽさまだな♥」
「でも、わたしは、わた…ヒックッ…
わたしは貴様のためならなんでもするぞ♥」
「だから、もっと…もぉっと…
貴様の子種酒で私を酔わせてくれ♥♥」
「愛しているぞ、私のご・主・人・様♥♥♥」
ぷぴぷぴ
ビュルル
ビュルル

「いったいどういうことなのかしらこれは……」
『んふふっ、お嬢さん外人さんですね？　これは日本式の挨拶で痴漢というものですよ』
「こんなに破廉恥な挨拶が日本に…？」
『お嬢さんが知らないのも無理はない。これは本当に美しい女性にだけされる挨拶なんです』
「そ、そうなの…？　Ｄａｎｋｅ。」
『いえいえ、まだまだこれは序の口です。手とり足とり教えて差し上げましょう…んふふっ』
もみ
もみっ
続きません

★奥付

発行日 2014年8月17日

発行 マキ帝国

イラスト 巻
文 タンクスレイヤーミサン

Email mackee90@gmail.com

twitter mckeeelog

印刷 有限会社ねこのしっぽ様